

作物から種、種から作物と受け継がれる美味しい野菜！

カロリーオフセットが支援するコミュニティ菜園では、栽培した作物から優良種子を選んで保存するシードバンクを設けることを奨励しています。保存された種子は次の作付けの時に使ったり、数年間、保管することもあります。菜園のメンバーがシードバンクの種を使った場合は、借りた量以上の種を返すという決まりがあります。そうすることで種が別の農家や次の世代に受け継がれていくことになります。

バルーク菜園のリーダーのカーティスさんは、段ボール紙に果物の種を果汁ごと貼り付けて保存するなど独自の保存方法を実践しています。菜園は幹線道路沿いにありますが、乾季にも作物が青々と育っているのも、興味をもって車を止めて立ち寄る人が多いそうです。



455 の農園ができました

(2023年6月時点)

農業にもITを



エンガシュラ菜園グループはエンジニアの学位を持つスティーブさんが始めたグループです。メンバーは5名とまだ少ないですが、ソーシャルメディアを利用してマーケティングするなどIT技術を生かした農業経営を実践しています。

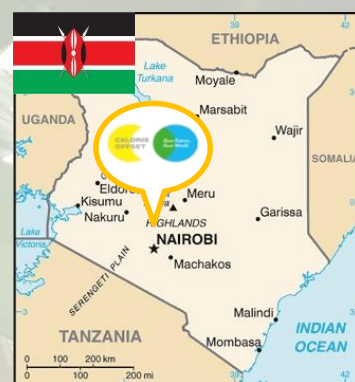
有機農業を始めてから変わったことは？



ポールさんはカフアイニ菜園グループのリーダーですが、有機農業に転換する前は週に2回農薬を散布していました。ある時誤って体にかけてしまい、やけどのような症状が現れました。農薬を散布をした日の夜はめまいや睡眠不足に悩まされることがありましたが、自分で有機肥料や農薬を作って利用するようになってから、病院に行くことがなくなったそうです。



ケニアでも化学肥料の価格が高騰していますが、コミュニティ菜園では肥料や農薬を自作しており、インフレーションの影響は軽微です。収穫後に農薬を使用した頃は、農作物を1週間寝かせる必要がありましたが、今はそのような農薬を使用していないため、収穫後すぐに作物を出荷できるようになり、時間のロスもなくなりました。



アフリカ東部に位置するケニアは、国土が日本の1.5倍の約58.3万Km²、東はインド洋、北は砂漠、中央部の高地、南はサバンナと地形は変化に富んでいます。

人口は4,756万人で、観光や農業が経済の中心で、人口の約8割が農業に従事して生計を立てています。